

株式会社 シティーライン

〒811-2233 福岡県糟屋郡志免町別府北2-7-7
TEL 092-612-0089 HP <http://www.city-line.co.jp/>



公式HP

業 種 道路貨物運送業、倉庫業
従業員数 170名
資 本 金 2,500万円

事業内容

福岡・九州に特化した配送とセンター運営のプロ集団

1983年創業の物流会社。医療消耗品商材・歯科消耗品商材・医薬品・文房具事務用品・ドラッグストア商材等の配送納品代行、物流在庫保管管理代行為主な事業で、九州全域で約500社と取引しBtoBの輸配送網を展開。九州の物流会社で唯一、関西から九州全域へ翌朝着が可能な配送サービスを提供。



改善成果のポイント

訪問支援回数 | 7回 (支援期間: 15カ月)

- 自社の強みを維持したままのレガシーシステムからの脱却
- さらなる成長に向けた情報基盤の構築

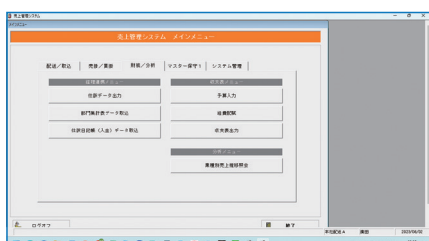


Q どんな困りごと(課題)がありましたか?

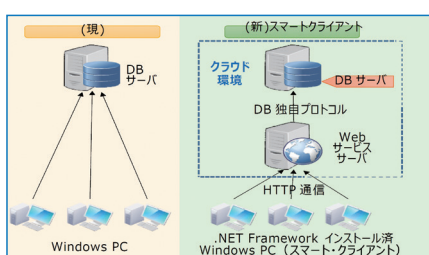
輸配送・ロジスティクス業界は、残業規制や2024年問題などの大きな変革の流れの中にあり、それらに対応するために労働生産性の向上が求められ、業界全体のIT化も急速に進んでいる状況です。当社は従来より、荷主ごとの料金設定にきめ細かく対応できるなどの特殊な機能を多く備えたシステムを自社開発し、顧客ニーズに細かく応えたり、日々のデータを迅速に把握してそれをもとにオペレーションの改善につなげたりすることで成長してまいりました。

しかし、逆に早くからIT化に着手していたがために、システムの老朽化という問題に直面していました。システムを構成している技術基盤が古いため、開発フレームワークやプログラムに柔軟性がなく、追加でシステム改修をするにも一苦労となっていて、業界の変革への対応に遅れを取りかねない状況にあったのです。他にも、ハードウェアの老朽化に伴う処理速度の低下やシステム障害の発生なども課題となっていました。

課題 4 5



旧システムの財務分析メニュー画面

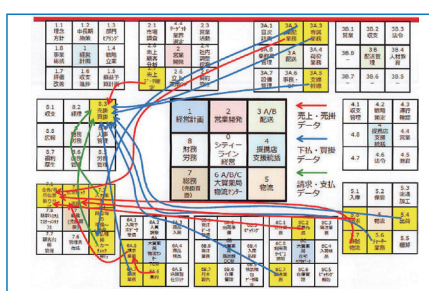


システム環境の移行イメージ

Q 改善の取組み内容を教えてください

今後のさらなる環境変化に即座に対応していく力を確保するために古い技術基盤から脱却すること、あわせてハードウェアの老朽化に伴い発生している処理遅延や障害などを解消することを目的として、新しいシステム環境へ移行させることとしました。

そのために、まずは既存システムの機能について棚卸を実施し、当社の強みであり、新システムでも実現すべき機能を中心に要件を固める作業を行いました。その際、環境変化に合わせて新たに対応が必要な機能を盛り込んだり、新システムでクリアすべき課題について整理したりして、それらにより見込まれる効果を数値化しました。実際の再構築にあたっては当然自社だけでできるものではないため、システム開発会社を選定し、彼らと密なコミュニケーションを取りながらプロジェクトを推進していきました。その結果、物理サーバからクラウドサーバへの移行が完了し、その基盤の上にシステムを再構築することができました。



業務全体でデータの関連を整理



新システム導入に向け繰り返し開いた、ベンダーを交えた打合せ

Q 取組んで良かった点を教えてください



メインの
効果
(改善点)

今回の再構築により、拡張性・汎用性が大きく向上し、今後の環境変化に迅速に対応可能な基盤を構築することができました。性能面においても、技術基盤や機能を見直したことによりシステムの処理時間が大きく向上し、時間がかかっていた締め処理においては75%もの時間を削減することができました。

また、電子化への対応も進み、紙の使用を大幅に削減することができたほか、全体的に操作性も大きく改善し、決算対応などで多く行われていた手作業も自動化するなど業務を効率化・整理化することができました。

整理したプログラム一覧表(一部)



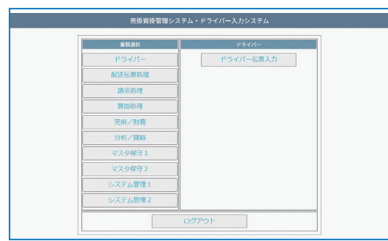
副次効果

物理サーバからクラウドサーバに移行したため、各種設定がオンラインで行えるようになるなど運用面が向上しました。これにより今後のサーバ拡張が柔軟に行えるようになった他、年2-3回出勤対応していた夜間や休日のサーバメンテナンスが不要となりました。



今後の目標

今回の再構築によって構築した基盤をベースとして、さらなる機能改善・業務効率化を進めていきたいと思っております。具体的には、RPAと連携した自動化や、照合作業の簡素化、各種実績数値の見える化等を検討しています。



新システムのメインメニュー画面

企業様の声

短納期でのシステム開発プロジェクトでしたが、アドバイザーから助言を受けて課題管理表を活用したりマイルストーンを設定したりしたことで、プロジェクトをスムーズに進めることができました。また、システム開発会社とのやりとりにおいても、技術的な要件や納品物等で不明瞭な部分について確認やアドバイスをいただき、満足のいく成果物に仕上げることができました。



株式会社シティーライン
専務取締役
木原 教孝 様

生産性アドバイザーから一言

九州の物流の要として、非常に多くの強みをお持ちの中、それを支えるシステムの強化が必要な状況でした。大規模なシステム更新などそうそうあるものではないため、進め方に困ることもあったのではないかと思います。しっかりと準備して進められ、アドバイスも素直に聞き入れ、しっかりとご対応いただいたことで素晴らしい成果につながったのではないかと思います。

生産性アドバイザー
大山 昇

